

5月4日(金) 法律は国民自身のために

民主主義の政治のもとにおける法律は、国民お互いの暮らしを守り、それぞれの活動の成果を得やすくし、一人ひとりの幸せを生み高めていくところに、究極の目的なり存在意義があるのだと思います。いってみれば、国民が国民自身の幸せを実現していくためにみずから法律を制定する、というしくみになっているわけです。

したがって、国民お互いがこういう法律を軽視し、無視するような姿がかりにあるとするならば、それはいわば自分自身を軽んじ、自分の尊厳を失うことにも通じると思います。そのことをお互い国民は正しく認識しあい、法律を常に正しく守りあってゆくことが肝要だと思います。

5月5日(土) 日に新たな経営を

よく長い歴史と伝統を持った“しにせ”と言われるところが、経営の行き詰まりに陥ることがある。そういうところは正しい経営理念を持たないかという決してそうではない。むしろ、創業以来の立派な理念が明確に存在している。

しかし、そうしたものを持ちながら、それを実際に適用していく方針なりやり方に、今日の時代にそぐわないものがあるわけである。もちろん、旧来のやり方でも好ましいものはそのまま続けられればいいわけだが、やはり時代とともに改めるべきは改めていかなければならない。

その時どきにふさわしい日に新たな経営があつてこそ、正しい経営理念も永遠の生命を持って生きてくるのである。

5月6日(日) 断絶はない

最近の若い人たちの考え方が変わってきているといえは変わってきている。そしてそこから断絶という受けとめ方も出てくるけれども、おとなと若い人の中には、いつの時代でもある程度の隔たりはあつたわけである。しかしそれは考え方の違いであり、断絶とは考えられない。それを何か断絶という言葉におどらされて、おとなが言うべきことも言わないというのは、非常によくないことだと思う。断絶という言葉でみずから離れてしまつてはいけない。

断絶はない。しかし青年と中年、老人とではおのずと考えが違ふ。永遠にそうなんだ、と考えてそれを調和していくところに双方の努力と義務があると思う。

5月7日(月) 派閥の活用

“派閥の解消”ということがよく問題にされる。しかし考えてみると、私は派閥というものはおよそ人間の集まる場所、どこにでもついてまわるものだと思う。派閥をつくるのはいわば人間の本能であつて、いいとか悪いとかいう以前の問題ではないだろう。

それならば、むしろ派閥を肯定した上で、これを活用し

ていくことを考えてはどうか。つまり、各人がバラバラであるよりもいくつかのグループになっていた方が、全体としてまとめやすく、より能率的に事が運べるわけである。派閥は解消できない。むしろあつていい。大切なのは、派閥を真に生かす、心の高まりだと思ふのである。

5月8日(火) みずからを教育する

人間の教育にはもちろん立派な校舎も必要であり、環境も必要でしょうが、そのみに頼つてはならないと思ふのです。行政の充実により、なるほど環境はだんだんよくなっていくでしょう。しかしそういう環境がつけられたとしても、その中でそれぞれの人がみずからを処して、みずからを教育してゆく。自問自答しつつ、より高きものになってゆくということを怠つては、決して立派な人間は生まれてこないと思ふのです。

きょうよりあす、あすよりあさつと、みずからを高めてゆくところに人間の成長があり、またそこから立派な人間が生まれてくるのではないのでしょうか。

5月9日(水) 社員学の第一歩

社員はまず、社長をはじめ首脳者というもののかいかに忙しい仕事をし、いかにかその職責が重大なものであるが、ということを知つていただきたい。私は社員学の第一歩は、そこから始まると思ふ。またそういうように、社員が首脳者の苦勞を知ると同時に、社長や会社の幹部は、社員の立場に対して理解を持ち、そして社員の働き、苦勞に対して大いに感謝することが大切である。

こういうようなことに双方がなると、どんな事業でも成功すると思ふ。またそういう考え方がどの程度にあるのか、ということによって、その会社の将来を非常にはっきりと判定できると思ふのである。

5月10日(木) 衆知を集める経営

会社の経営はやはり衆知によらなければいけません。何と云つても、全員が経営に思いをいたさなければ、決してその会社はうまくいかないと思ふのです。社長かいかにかに鋭い、卓抜な手腕、力量を持つていたとしても、多くの人の意見を聞かずに、自分ひとりだけの裁断で事を決することは、会社の経営を過つもとだと思います。世間一般では非常にすぐれた一人の人かワンマンで経営すれば、事がうまくいくということをよく言いますか、社長一人で事を遂行することはできませんし、たとえできて、それは失敗に終わるだろうと思ふます。やはり全員の総意によつていかになすべきかを考えねばならないと思ふのです。

